



◀ キャンプだ、ホイ! (7月)
東京YMCA山中湖キャンプ場において実施。各グループで村を構成し、村長以下、農協、旅行会社、時計屋、保健所などユニークな名前が各係につきまわりました。楽しい3日間でした。



▲ サンタが素心にやってきた(12月)



◀ 新プレハブ完成 (12月)
グラウンドにできた、とんがり帽子の赤い屋根のプレハブ。これは、富士記念財団からのプレゼント。地域サービスの作業場として利用されています。

子筆亭
素心学院を初めて訪問する人は、そこが一風変わった特殊な場所として違和感をもつかもしれない。初対面でも、以前から知り合いでもあったかのように話しかけてくるし、大声で挨拶を何回もしたりする。彼らの行動は相手に気がねがない。ノロノロ歩いている人もいれば、はしゃぎ回っている人もいる。老若男女入り混じっての生活だから、そう思われても無理もない。▼施設で生活している彼らにとって、外からの訪問客は嬉しいでき事なのだ。自分が昨日何をしていたのか、仕事は何をしているのか、うまく話せなくても一生懸命話しかけてくる。一切切話してくるので、少々聞くほうも減っている。話している内容もよく聞きとれぬ事も多い▼実際彼らは実に個性的で快活なのだ。それだけに表現の仕方でも様々で、手振り身振り、時には片隅でじつと視線だけ流していたりする。何も言わぬ赤児が何か訴えるように、それぞれの動作や声には、それぞれの意味や信号があるに違いない。常識化してしまつた会話や倫理、ふと彼らを見ていると、本当の触れ合いというものを教えられるような気がする。

話は学院生の宮崎君が、2匹の仔犬を連れ帰つたことから始まる。実は今回で2度目であるが、彼には飼えない立場があった。学院では飼えないことは知っていたし、連れ帰れば叱られることはわかつていたが、彼が勤める職場から頼まれれば断りきれなかったのだ。前回は幸いにして引き取り手が見つかったが、今回はそうはいかなかった。それを聞いたホーム生は「飼えるものなら飼つてあげたい。」と言ひ出した。さて、飼えるかどうか——ホーム生での会議が開かれた。議題は「みんな犬が飼えるのか?」尾本さん、小林さん、布川君曰く「餌もちゃんとおけるし、散歩も毎日するから飼いたい。」福島君曰く「犬は鳴くから近所の迷惑になる。」桜木君は「犬はきらいだ。」澄子さんは「うちでも飼つてる。」椎名君曰く「みんなで2匹も飼えない。」最後に哲子さん「飼つてもいいよ。」などなかなか内容のある話し合いだった。犬が鳴くのは小さいうちだけなのでなんとかなる。問題は1匹で



お知らせ
●原稿をお待ちしてます
① 原稿……題材自由 1000字程度
② イラストや写真などどしどし係までお寄せ下さい。
●カレンダー販売に御協力いただきまして、誠にありがとうございました。くわしくは次号で報告させていただきます。

マヌケ顔のクロちゃん
さざんかホームに2匹の仔犬がやって来たのは9月24日。ひどく汚れて臭く見るかげも無い。公休でホームに居た佳子さんと2人で風呂に入れてドライヤーをかけてやる。見違えるばかりに可愛らしくなつた仔犬のどちらを選ぶかが話題となつた。2匹ともメスで1匹は茶色で細身、見るからに利口そうな顔つきであり、もう1匹は黒っぽい毛並で仔犬らしくコロコロしているが、なんとなくマヌケ顔である。全員一致で茶色の方が良いという事になつたが、その夜……



茶色の犬が殆ど一晩中吠えて裏の家からも苦情がきて、慌てて次の夜は男子ホームの前に紐ひだが、その夜は男子が眠れず「茶色の犬は駄目だ。」と言ひ、結局マヌケ顔の仔犬を選ぶ。
名前は「クロちゃん」
朝に夕に全員が仔犬の様子を見に行くと餌・水を与える者はいない。話し合いの結果、当番制とし、今の所順調である。「犬は嫌だ。」と言つていた桜木君は、実は大好きでしつこく可愛がり過ぎて、犬に嫌われるくらいがある。哲子さんが早朝薄暗い頃、庭でドタドタと物音がするので窓から覗くと、彼が嫌がる仔犬を無理矢理引きずり廻していたと話してくれた。澄子さんは散歩をさせる役で、

編集後記

▼なんだかんだと言ひながら、今回もなんとかできてしましました。できそうできず、できなさそうできず……そんな繰り返しのうちに寒気は、ギリギリまで蒲団にもぐり込んでいた……それでもやっぱり起きるぞ……(杉)
▼今号は素心学院をささるる人びとの特集。この新聞をささるるは、新聞の印刷をお願いします。

いっている「カメラ写真」さんと、読者の皆さんです。(見) 感謝、感謝!!
▼紅一点——現在1名育児休暇中なので、慣れない仕事をしただけ、ウーががんばつたのだ。誰かトクホンを下ささい!! (青)
★そして発行は—— 神奈川県中郡大磯町 虫窪24 電話〇四六三—71—1255 社会福祉法人 素心学院 素心学院 施設長 田代哲郎



今回の学院だよりは、常日頃陸になり日なたになり、素心学院を応援し支え、そして院生みんな一人一人をこよなく愛して下さっている方々の紹介です。



皆様で月一回の運営委員会を開き、運営にあたっています。ありがとうございます。

◆理事会

正式な言方をすればささえるではなくて経営している人であり、責任を負い学院のすべてを保障している人々です。しかし理事の皆さんは無報酬ですがも負債が生じた時は責任だけを負うといった、ちょっと今時考えられない役割を負った人々です。素心学院理事は次のちよつとユニークで立派な人々十一名の役員で成り立っています。ご苦労さまです。

- 理事 守永義輔
- 理事 田島静男
- 理事 前田直蔵 (恵和学園長)
- 理事 菅 寿子 (紅梅学園長)
- 理事 稲垣直太 (元県民生部長)
- 理事 辻 功 (医師、病院長)
- 理事 山下 聡 (会社社長)
- 理事 伊藤敏雄 (会社社員)
- 理事 坂田晋一 (会社社員)
- 理事 阿久津力 (会社役員)
- 監事 大坪龍雄 (税理士)

◆後援会

学院にいったん暖息あれば駆けつけ、バザーやれば早速売子になり、チャリティーやれば無理やり券を売らさばき、そして学院の人々が大好きである。こんな人

学院だより 素心学院を ささえる人々



大磯町ボランティア「さざんか」の皆さん

◆ボランティアの皆さん

もう二〇年近くにもなるでしょうが毎月中頃の水曜日が近づいてくると「お伺いしてよろしいですよ」と電話を頂くのは、大磯カトリック教会婦人会の皆様からです。「お願いします」に感えて学院での仕事は、破損した衣類、寝具等の修繕をして頂いてきました。それに対して学院の対応は年に数回、施設長が「苦労さまです」と頭を下げること、思い出した時だけ出すお茶だけ……。

長く続いている人々に、東海大ワークキャンプもある。昔は「お兄さん、お姉さんたち」と呼んでいたが、最近院生の方が人生においては先輩……。でも土方、草取り、院生との遊びにと一生懸命な姿は大部分の院生にとって、お兄さん

《我々に愛を!!》 伊賀の学丸



あたりは青白く月の光をおぼろに受けて、時々吠える野犬の声もうら淋しい……。今は草木も眠る丑三つ時。大磯の小高い山に囲まれた大望の地、素心学院の園内にも日中の活気は失せて何やら不気味な深夜にひきずられる頃だった。

学ちゃんこと「林学」君にあって、この底深い暗さからくる緊張感と静寂が何とも言えない絶好の魅力を呈しているのである。見回りをする職員の手配をよそに、勝手気ままに動き回れるのが何とんでも嬉しい。二段ベットのかなり高い所から一気に飛びおりると、腰を低めに一直線に廊下から外に出る。昼間は目を閉じている事が多く、いくぶん鈍重な彼であるが、日中とは打って変わり、闇の中では野性感と敏捷さに溢れている。多少肌寒い空気は、日中にも清々しさや解放感をもたらしてくれる。

彼の目的は、こういった夜の言い知れぬ解放感とスリルにあるが、あわよくば作業棟や食堂に忍び入り、食器棚や冷蔵庫をあさっておいしい物を獲得する楽しみもあったのだ。

その為には、あらゆる手段をもって忍び入らねばならない。たまたま開いているトイレの小窓から……まさかこんな所からと思われる危険な場所から軒づたいに隠密行動をとる。

施設を我が家としなければならぬ彼は、人と話をすることでも減多に無く、家庭というものの味を知らない。彼の不満の口は、人気の無い深夜に忍びこたくなって疾風のごとくかけ回ることなのかも知れない。それが自らの意志で選択した唯一の自己証明であるがこく……(S)

◆どろりん

◆十一月五日、Y先生は仕事を終えて、最近買ったばかりのピッカ、ピッカのモトクロス、スパイクでツーリングに出かけた。しばらくして彼は、不幸にも肥溜めに落ちてウソコだらけになって帰ってきた。もちろんバイクごと。行きがカッコ良かっただけに悲惨だったなあ。

◆十一月二十日、例のY先生が、この前のできごとからちよつと復活したのだったが、本日、ちよつとした親切心から、いえ彼はもともとと親切なのですが、特大のビデオテレビをホールより階下に運びおろすの手伝っていたのです。そして連院。何故ってキックリ腰ヨレ。若いのに、かわいそう、トイレに行くのもハイハイしながら悲惨だったなあ。その後Y先生は三日間仕事を休みました。

◆その他

◆多勢の皆さん
いつも院生に声をかけてくれる国府地区の皆さん、通勤ホームを作って下さった大家さん、畑や山林を貸して下さっている地主さん、いつも安くていいものを納品して下さい下さる商店の皆さん等々、書ききれません。さらに生まれた時から一日も離れた事のない家族の皆さんのささえ、そして日々奮闘する我々職員(給料をもらっている関係で原稿になりにくい)の諸賢へ謝々……

◆実習先

「行ってきまーす!」「行ってらっしゃい!」がんばって!」毎朝七時半〜八時過ぎに、何人かの院生たちが出かけられます。行き先はそれぞれの仕事場。これらの人々の働く場は、それぞれの事業所。ただ、労働力としてのみ見たら確保されなかったでしょう。そこには「この人達のために」、「この人達を育てよう」と



大磯町美化センターにて

◆講師の先生方

素心学院の職員名簿の中に「講師」としてお名前がのっているのは、陶芸の伊藤武治、佐藤一新の



絵画クラブ

素心学院ってなに?

素心では、年間いろいろな行事がありますが、何よりもみんなが心待ちにしているのは、「帰宅日」です。6月、7〜8月の夏休み、10月、12〜1月の冬休み、3〜4日の年度末休みの計5回、帰宅の日があります。この日以外でも、勿論、家に帰る人はいます。

その日は、朝からソワソワして早々と着替えをし、車や人の出入りを気にしながら、迎えが来るのを待っています。何事もないかのように、クールにその時を待っている人もいますけど……。

家庭では、どんな様子で過ごしているのでしょうか? 学院では、初中終、職員にうるさくアピールしている人も、我が家では別人のように過してれば、ここぞとばかりに甘えて、親を振り廻している人、テレビを好きにだけ見て、のんびり過している人もいます。また、家族で旅行に行ってきた、などと言う話も聞きます。いずれにせよ、学院でのくらしがあったので、家庭での楽しみ、喜びがあるのでしょうか。ある朝御さんが、こんな風に仰っていました。「こんな子でも、帰って来ると家が賑やかになる。これが家族だなあ、としみじみ思う。」と……。

ところで、帰宅期間中、いつも20名前後の院生が学院に残っています。帰る家のない人や、家の事情で戻れない人たちがです。この時ばかりは、日頃の喧嘩も薄れ、狭く感じた室内も徒々広く感じます。各人、好きな所に寝床を移し、一日を自由に過します。時には、個別に職員とデートをしたり、泊りがけの旅行に出かけたりもします。それは、家に比べたら、ちよつとつまらないことかもしれませんが、彼等は彼等なりに、休みを楽しんでいます。

帰院した日には、「〇〇を食ってた」、「〇〇へ行った」等、快活な声飛び交い、一気に華やきます。旅行に行った残留組も、「また、温泉に行こう、スキーに行こう」、「来年も一緒に行くでしょう?」と、一週間も二週間も帰っています。院生の充電期間、それが素心の「帰宅日」です。

理事会の動き

◆第75回理事会報告

昭和60年3月9日(土)に第75回素心学院理事会が、横浜のウエディング玉姫殿会議室にて開かれしました。7名の理事と1名の監事の出席のもとに審議が行なわれ、次の事項について承認、決定されました。

- (1)昭和59年度第二次補正予算案の承認
 - (2)昭和60年度事業計画及び予算案について承認
- 又、素心学院職員組織上、4名の主任を置くことが報告された。

総務主任 投野辰美
 調理主任 重田 栄
 指導主任 飯田俊江
 指導主任 浅見 茂



◆第76回理事会報告

昭和60年5月11日(土)に第76回理事会が前回と同じ場所で開催され、7名の理事と2名の監事の出席のもと、次の2点について、審議、決定されました。

- (1)昭和59年度事業報告及び決算案について承認

(2)福田理事が健康上の理由で、昭和59年5月31日にて退任し、後任として稲垣直太氏が、昭和59年6月1日付で理事に就任することが全役員承認を得て決定されました。

稲垣氏は、神奈川県民生部長を経て、七沢リハビリセンターのセンター長として職務につかれ、昭和59年3月に退職されたばかりで、素心学院理事会での活躍が期待されています。大正10年生まれ。

現住所は大磯町東町1の10の27

後援会コーナー

多勢の方の賛同を得て、いろいろな活動が軌道に乗って来た60年度でした。一年をふりかえって、主な事柄について報告いたします。

★委員会より

60年度も着実に会員がふえて現在約四百名の会員数になりました。会員委員会のメンバーでもある佐々木壮六先生にデザインしていただいた会員証を発行することになり、順調に作業が進むと、この新聞が発行される頃には、お手もとに届いているはずですがいかがでしょうか。

大磯カトリック教会

大磯カトリック教会

私共カトリック教会婦人会の者が、素心学院に同じ始めたのは、昭和44年10月のことです。当時、自分達の住む町の中で、何か出来ることはないかと考えていた私達は、役場福祉課に問い合わせたところ、初めて素心学院という名を知ったのです。

昭和45年9月1日に誠の素心学院への入所が決まりました。9月10日に福祉事務所の方と誠を連れて学院へ行きました。二宮には昼頃着いたので3人で食事しました。私は胸が一杯であり食事の喉を通りませんでした。それを見た福祉事務所の方から「今からそんな事でどうするの」と言われ、トイレに行き涙を拭いて来ました。

先生方が5人ぐらいて迎えてくれました。福祉の方は先に帰りました。先生に色々とお話を聞き、よくお願いをして子供を置いて帰りました。家では家族に何を話してよいか解らずに涙ばかり出て、その夜はあまり眠りませんでした。

長い一週間が過ぎ、父母会が

★事業委員会より
 バザーについては、今年度も近隣のいくつかの団体にお願いして参加させていただくという形をとりました。



二宮ふれあい広場バザー

- 1 大磯町こゆるぎ祭り(8月18日)
- 2 二宮ふれあい広場(9月8日)
- 3 大磯町さくら祭り(10月13日)
- 4 平塚市民市(10月20日)
- 5 国府小学校バザー(11月16日)

《後援会加入》

～のお誘い～

みなさん！素心学院後援会に加入しませんか。
 私達は素心学院の運営を側面より援助し、わずかでも障害者の福祉に寄与できたらという主旨で、後援会活動を行なっています。

会員一人一人の事情にあわせた無理のない、いろいろな協力や参加の形を考えております。

●主な活動内容

- 1 会員をふやそう！
- 2 資金を集める為にバザー等を行なおう！
- 3 素心学院でボランティアをしよう！

会費は年額一〇一〇〇〇円です。会員には素心学院新聞が郵送(年2回)郵送され、また毎年4月には総会が開かれます。

入会案内書をお送りいたしますので、後援会事務局までご連絡下さい。

素心学院後援会会長
 水沢 孝幸

●事務局
 ☎259-01 神奈川県中部大磯町虫窪24
 素心学院内(担当：彦坂)
 TEL0463(71)1255



手しや捕 1組は職員室で接ぎ物などをしましたが、毎回干した布団がどのベッド行きか忘れてしまつて、院生の方にすつかりお世話になったものでした。

昭和47年の夏、大変残念なことに坂田先生が急逝されました。その後田代先生からのお話で、毎月一回伺うことになって、今日に至っています。

私たちが脱いだ靴を、どこかへ持って行ってしまつたいたずらっ子、珍しいおばさんたちに親愛の

いろいろありました。院長先生、大原先生が続けて亡くなり、誠と仲良しだった田中つちやんも亡くなり悲しい思いをしました。誠も51年には腸閉塞で一週間入院しましたが、楽しい事も沢山ありました。

学院に入所する前は、誠が通園していた為にどこへも行けませんでしたが、キャンプ・旅行は特に楽しい事でした。入所して初めての旅行は土肥温泉でしたが、私にとって一泊旅行は初めてのことで嬉しかったのです。その後いろいろな所へ連れて行ってもらいました。

誠が入所以来15年の歳月が過ぎました。世田谷児童学園に誠が居た頃より仲良くしているお友達の方々と、月に一回位新宿で会いま

花壇の手入れの他に、大磯町ボランティアさんからの皆様が、新しく加わり、大きな力となって学院の清掃、花壇の手入れ等にたずさわっていただきました。これからも、楽しくのんびりと作業を続けてゆくつもりです。詳しいことはボランティア委員長の彦坂喜八(☎0463-71-4398)までお問い合わせ下さい。一緒にがんばりましょう。



情を示して下さったのか、体当たりして来た坊やも、皆さん大きくをり、それぞれ院内でのお仕事に精を出して下さる。学院に伺う度、先生方の献身的な指導振りか頭の下がる思いがしてきましたが、次第にその成果が現われて居ることが感じられます。

この10数年の間には、クリスマス、運動会、改築祝い等々に、何回かお招きを受け、楽しい思い出になっています。パン食い競争も一緒にしましたっけ……表彰状を頂いたこと、先日は田代先生から気軽に仕事を頼られたとおつちやつて頂いたこと、本当に嬉しく、励みとなりました。

教会婦人会は、人数の少ないのが悩みですが、障害者の方々と折角続いた長いおつきあいを、今後とも出来るだけ長く続けさせて頂きたいと願って居ります。



父兄ペンレー

素心学院と 共に15年

渡辺 トシ

なんかに心配していたのに……と私はがっかりした反面、安心もしました。

長い間に悲しい事や楽しい事が

作業C班の五人が外出するとい
うので、我々報道班は、さっそく追
跡レポートをする事となった。普
段の彼らの自然な行動を大切に
思い、隠密でゆつくりと車で尾行
する。素心より六所神社のところ
を通過して、国道一号に至ってパ
スに乗る予定である。歩いている
順番がおもしろい。一番しっかり



追跡レポート

仲よし 五人組

～作業C班～

者のキヨからトットにタケ、マツ、
イズミと、(愛称)順番を狂わすこ
となく歩いている。どこか隊列を
くずすまいと緊張して歩いている
兵隊のようで、気まじめな反面、
非常に滑稽で、のどかにみえる。
国道にやっとでると、待つてまし
たとばかりにパスが見え始めた。
慣れている事とはいえ、あまりの
タイミングの良さにあきれてしま

った。残念ながら車内の事は何い
知れぬが、あのま列を乱さず座
つたと思われる。それから、二、
三ヶ所停留所を通過して高駅に
着いた。最初の乗客が降りてから
何人目かに彼らを認めると、少し
ホッとした。相変わらず一列縦隊で
きちんと歩きながら、いつもの喫
茶店に入っていく。気ずかれない
よう尾行している我々は、正に犯
人を追う刑事のごとくでもあり、
何やら浮かれる気分であった。結
局こうして外で待つていても中の
様子が見えないという事で、し
かたがなくアベックを被り中に入
ってゆくことにした。案外状況や
「あれー」「先生もきたのー」と
簡単に見破られてしまながら「ちよ
つとね。」とか何気なく答え、別
の席をとってまたま出逢ったと
いう形にしたつもりだった。大将の
キヨ君が右手に千円札を数枚わし
ずかみしている、これがすごかつ
た。ウエイトレスが注文にくると
そのお金をいじりながら一瞬、沈
黙がよぎった。キヨは少し思っ
つたのか「今日はねっ」「今日は
ねー」と何回か一人言のようにつ
ぶやいていたが、急に決心したよ
うに「あ、あつたかいのー」と問
の抜けたような注文。すかさずウ
エイトレスが「ホットですね。」
と答える。それを皮切りに、他の
人達も思い思いに「注文をつ

げた。それでもキヨは、その場を
盛り上げようとしているのか、友
達が何か話をする、頼んだり、話
かけたリリーダーの雰囲気十分で
ある。話の内容は、来たばかりと
いうのに、帰りはどうやって帰る
かということばかりであったが、
彼らにとってみるとかなり大切な
事であった。それにしても、さっき
から気になるのは、オタケじじと
ニヤニヤしているこちらにじっと
視線を付けていることだ。何か言
いたげな様子である。しばらくし
て「先生、ダンナさんいるから浮
気しちゃダメよ。」とか「皆んなに
黙ってあげてから。」と言われて
しまう。男女二名のインスタント
取材班は、少しあわてってしまった。



「一日にどのくらいの量ですか?... 香りは...」
学院では毎朝、院生の便の報告があり、健康状態をチェックする一
つのバロメーターとしております。私達のお腹の中には百種類の良
菌、悪い菌、ふつうの菌が百兆個(1kg/1.5kg)もあります。
赤ちゃんの甘ずっぱい黄色のうんちには大部分がビフィズス菌などの
良い菌で、ふつうの大人になると、良い菌は少なくなり悪い菌が増えま
す。黄色に近い、甘ずっぱい香
りのうんちが理想的なのです。
又、うんちの色は食物のかすです
が、腸内細菌なのです。最近で
はほとんど聞かなくなりました。
「おかわり」が健
康な人で、一日の量はバナナ二、三本くらいが理想的なのです。
生活が何かと便利になり、日頃の運動不足に加えて、肉食を多くと
っているとうんちも便秘がちになってしまいます。日本人の腸は
欧米人に比べ細くて長い(九メートル)ので便秘すると悪い菌が増
え有害物質をつくり、腸ガンなどの病気にかかりやすくなつてしま
います。うんちのもともなる野菜(特に大根、かぶ、人参、牛蒡、
蓮根、玉葱、芋類)やヨーグルトなど乳酸菌を食べるよう心がけま
しょう。(青)



～泉 脇 優 登～
'64東京オリンピック
'70日本万国博
'72札幌オリンピック
'73スキーワールドカップ
'75～'83国際スキー
ワールドカップ
上記各競技大会の
ヘアースタ일리スト

「ヘアサロン IZAWAKI」
～泉 脇 優 登～
「海を散歩すること」
好きな音楽
「60年代ポップスと加山雄三」
尊敬する人
「沢田美喜さん」
素心の院生について

「彼らが感じてい... は私達と同
じなんだ。ただそれを表現する事が
できないだけなのだ。彼らにも何
か世の中での役割を持っているは
ずです。」
飯田健一君について
「お店に来る人達との出会いが彼
にとっては、とても大切なのです。
彼とつれづれに一つずつ克服して
いきたい! 長い目でみつめてや
りたい。」

☆泉脇さんは、院生の頭を散髪
して下さるB型の地域の床屋
さん。そして、飯田君の妻留
先の社長さん。
「障害福祉施設地域サービス推
進事業」、ちよつと聞き慣れない
ことばですが、皆さん御存知です
か。我々は短縮して「地域サービ
ス」と呼んでいます。これは大磯
町からの委託事業で、素心学院が
大磯町在住の障害者に対し、福祉
的サービスを行なうものです。在
宅の人々の生活空間を広げ、日々
の生活に減価をつけてもらいたい
と願い、一日入所と訪問を中心と

障害福祉施設 地域サービス推進事業



「彼らが感じてい... は私達と同
じなんだ。ただそれを表現する事が
できないだけなのだ。彼らにも何
か世の中での役割を持っているは
ずです。」
飯田健一君について
「お店に来る人達との出会いが彼
にとっては、とても大切なのです。
彼とつれづれに一つずつ克服して
いきたい! 長い目でみつめてや
りたい。」

☆原 恵子 (調理場)
洋服と手芸が大好き! 将来娘達
のウェディングドレスを自分で
つくるのが夢...
★竹島 陽子 (調理場)
エレクトーンをひいている時、
カラオケで唄っている時、お酒
を飲んでいる時が一番幸せなの
である。
★原 美和
「おかもつちゃん!」と呼ばれ
い。作業の他、生活訓練(歩行、
洗面等)や外出(映画、お茶)も
行なっています。以前は家の中か
ら一歩も外に出ようとしなかつた
人も、今では、和紙作りの主力メン
バーとして頑張っています。
訪問は、現在八件の家に対し三日
から二週間に一度指導員がおじゃ
ましています。サービスの内容は
歩行訓練やお話しの相手をするこ
とです。時には学院に来ていただ
いて入浴指導したり、通院の為の
送迎のお手伝いもしています。
現在、大磯町の人口が三万余名と
そのうち何らかの形で障害をもつ
ていらつしゃる方が約八〇〇名と
いられています。素心学院で関わ
っているのはそのうちのごく一部

新職員紹介

「おかもつちゃん!」と呼ばれ
い。作業の他、生活訓練(歩行、
洗面等)や外出(映画、お茶)も
行なっています。以前は家の中か
ら一歩も外に出ようとしなかつた
人も、今では、和紙作りの主力メン
バーとして頑張っています。
訪問は、現在八件の家に対し三日
から二週間に一度指導員がおじゃ
ましています。サービスの内容は
歩行訓練やお話しの相手をするこ
とです。時には学院に来ていただ
いて入浴指導したり、通院の為の
送迎のお手伝いもしています。
現在、大磯町の人口が三万余名と
そのうち何らかの形で障害をもつ
ていらつしゃる方が約八〇〇名と
いられています。素心学院で関わ
っているのはそのうちのごく一部



★佐伯 道夫
青木 博子
岩丸 千里
伊藤 晴美
田代 幹康
遠藤 由紀
大島 典子
鈴木 寛
★上田 一成
22才の男性です。「22才の別れ」
という曲とは、関係ありません。
何故って、私にはそんな華々し
い過去が無かつたからです。
ちなみに今一番大事にしている
物は、5年前に彼女からもらつ
た派のハンカチ。また、一番好
きな人は、清二君です。
今一番したい事は、旅行。
(んーでは「すぐに出発
なさい」)

